

按此鐘雖不鑄歲月推其形狀且文體為天正以前物必矣

〔下總國舊事考〕金石宮本村光明院鐘識

敬白下總國匝嗟南條庄熊野山若一王子御寶前寔鐘

發願聖人上慶略中

文和貳年癸巳拾貳月十三日

〔下總國舊事考〕金石富岡村長德寺鐘銘略中

下總國千葉莊椎名富岡山長福寺願主宥傳藥師如來鐘一口

天文四乙巳二月十七日

〔東路のつと〕或人安房の清洲を一見せよかすと誘ひしに、いづこかさしてと思ふ世なれば、立歸り江戸のたてのふもとに一宿して、隅田川の河舟にて、下總國葛西の庄の河内を、半日計りよしあしをしのご折しも、霜枯は難波の浦に似通ひて、隠れて住し里も見えたり、

藩封

〔慶應元年武鑑〕帝鑑開朝散大夫堀田相模守正倫 拾一万石 居城下總印幡郡佐倉 江戸ヨリ住通十三里半ヨ

天正十八年久野三郎左衛門尉宗能慶長年中同民部少輔宗伊守家信同若狹守康信同十九堀田

築之土井大炊頭利勝寛永十石川主殿頭忠總同十二松平紀伊守家信同若狹守康信同十九堀田

加賀守正盛同上野介正信寛文元松平和泉守乘久延寶六、大久保加賀守忠朝貞享二、戸田山城守

忠昌同能登守忠真元祿十四稻葉丹後守正通同丹後後守正知享保八、淀エ替松平左近將監乘邑

同和泉守乘裕延享三、堀田相模守正亮以後領之

雁間朝散大夫土井大炊頭利則 八万石 居城下總葛飾郡古河 江戸ヨリ十六里半

天正十八、小笠原兵部大輔秀政慶長七、松平丹波守康長同十三、小笠原左衛門佐信之、同左衛門大

政信、元和三、關宿エ替同五、奥平美作守忠昌同八、永井右近大夫直勝同信濃守尙政、寛永十、土井大

炊頭利勝、同遠江守利隆、同大炊頭利重、同周防守利益、延寶九、堀田筑前守正俊、貞享二、松平日向守

信之、元祿七、松平伊豆守信輝、同伊豆守信高、正徳二、本多中務大輔忠真、同中務大輔忠、徹寶曆九、松

平周防守康福、同上ヨリ再、久世出雲守廣文 四万八千石 居城下總葛飾郡關宿 江戸ヨリ十三里